

# 六大師像の建立

大野地区の男女山八十八ヶ所霊場は、大正時代に和田の新田六太郎によって勧請かんじようされました。信仰心の高篤い六太郎は、四国や小豆島の八十八ヶ所霊場を何度も巡礼し、大正四年（一九一五）、男山・女山の間

に男女山満福寺を創建し、四国八十八ヶ所の札所から持ち帰った砂を男山・女山に埋め、男女山八十八ヶ所霊場を開いたといえます。一番札所を和田の新田堂として（現在は女山麓に所在）、最終の八十八番札所を男女山吉祥寺とし、札所ごとに寄進された石仏が置かれています。大正五年に「浄信」と改名しましたが、六太郎は地域の人々から「六大師様」と呼ばれ、尊敬を集めていたといえます。

六太郎の死後、女山の麓に六太郎



新田六太郎（六大師）像

の石像が建立されました。昭和六年（一九三二）十月十八日の津山毎日新聞にこの時の記事が掲載されています。以下、記事の内容を転載します。

大師婆さんの石像建設式

大野村大字和田、新田浄信、一名「六大師さん」は昨年秋死亡したが、生存中大師様を信仰し、四国八十八箇所を順拝せし事十数回、小豆島順拝数実に五十数回、尚明治初年には苦田郡「旧四郡」に八十八箇所を広め、大正四年には大野村男女山に八十八箇所を祭り、世人に功德とくどくを与へたる事多大にして、其徳そのとくを後世迄残までさん為、石像



男女山八十八ヶ所 一番札所



男女山満福寺

を建設せんと寄付を募集致せし処ところ、二百余円が集まったので、福岡県宗像郡津屋崎町石像彫刻師広田福蔵氏に依頼し彫刻中、此程竣工したので十日、男女山満福寺に建設し、除布式を挙行した。当日は遠近より老若男女六百名の多数の参拝者があり、石像の前で御詠歌ごえい大会をもよほし、午後五時盛會裡に散会した。（原文の旧漢字を新漢字に改め、適宜ふりがなをふっています。）

タイトルが「大師婆さん」となっている理由は不明です。『鏡野町史』民俗編によれば、六太郎は新田鶴蔵の二男として嘉永六年（一八五三）に出生したと書かれており、六太郎という名前からも男性であったことは間違いないので、記者の誤りでしょうか。

また、記事中に「明治初年に苦田郡「旧四郡」に八十八箇所を広め

…と書かれています。これについても同じく『鏡野町史』民俗編に

明治二十二年（一八八九）三月に津山の青山氏が記録したとされる「当国八十八ヶ所

順拝録」の中で、苦田郡内の八十八ヶ所の札所が書かれているのですが、一番札所が和田の新田堂で、ここを起点として市場―公保田―寺和田―香々美―西田辺―下横野―上横野―東一宮―紫保井―小原―上河原―沼―林田―川崎―二階町―椿高下―山北―総社―小田中―二宮―院庄―神戸―吉原―古川―布原―田邑―沢田―円宗寺―瀬戸―竹田―寺元―小座―上森原―下森原―塚谷―馬場―貞永寺―土居というルートで札所が設置されていることから考えると、新聞記事に書かれているように苦田郡の八十八箇所の勧請にも六太郎が深く関わっていることが想像できます。

男女山八十八ヶ所巡りは、昭和初年頃までは近参拝者でにぎわっていたようで、大師まんじゅうや大師せんべいも売られ、うちまき米（各札所に供えられた米）が一日に二、三俵あったともいわれています。

現在の男女山八十八ヶ所はかつてのにぎわいはありませんが、地元の方々に手厚く保護され、六大師像は静かなまなざしで訪れる人を見守っています。

参考：『鏡野町史』「津山毎日新聞」  
協力：津山郷土博物館

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下  
電話（0868）54-0573